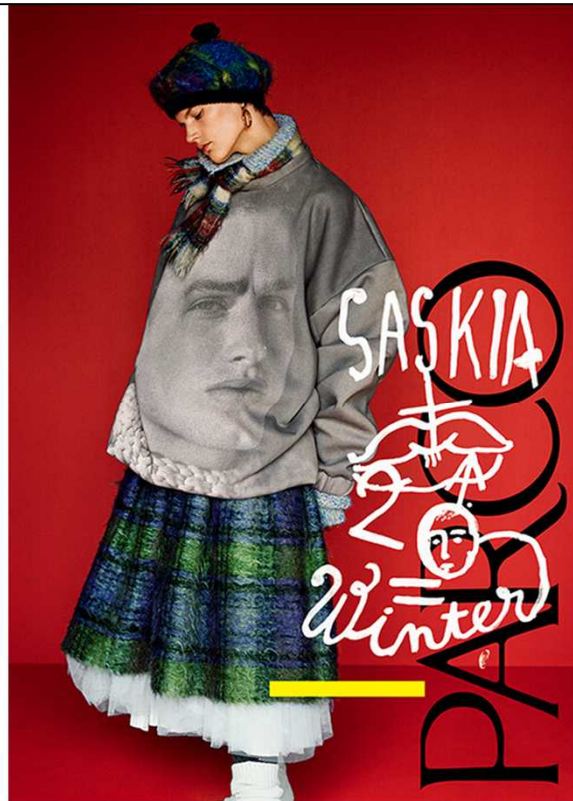


株式会社パルコ
2018年2月期 (2017年度)
第2四半期
決算説明会資料

【東証一部 8251】

* 2017年度よりIFRSを適用しています。



2017年度第2四半期決算の業績概要と、ショッピングセンター事業を中心に各事業のトピックスを、ご説明いたします。

- ・ 第2四半期決算は、渋谷パルコの一時休業や千葉パルコの閉店の影響などにより減収減益だったものの、営業利益と当期利益は計画を上回って着地
- ・ 中期経営計画(2017-2021年度)で定めた事業ポートフォリオ変革の方向性に基づき、引き続き選択と集中に取り組む
- ・ 中期経営計画で目標としている開発物件12件のうち、すでに8件が進行中
- ・ 新規の開発物件として、大丸心齋橋店北館への出店を9月に発表。パルコ業態の空白地であった大阪エリアへの出店
- ・ 新築による三宮ゼロゲート物件の進行など、新生渋谷パルコをはじめとする各物件の計画は順調に進捗
- ・ 下期、J.フロント リテイリングとの協業案件「パルコヤ」（上野）と、注目度の高い商業エリアである京都ゼロゲート（仮称）が開業予定
- ・ 1996年に開業した大津パルコは、8月末で営業を終了

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

第2四半期決算は、渋谷パルコの一時休業や千葉パルコの閉店の影響などにより減収減益だったものの、利益は計画を上回って着地しました。

パルコグループでは、事業ポートフォリオを変革していくという、中期経営計画(2017-2021年度)で定めた将来の成長実現へ向けた事業展開の方向性に基づき、引き続き選択と集中に取り組んでいます。

新規の開発物件として、大丸心齋橋店北館への出店を9月に発表しました。パルコ業態の空白地であった大阪エリアへの出店となります。この心齋橋を新たに加え、中期経営計画で目標としている開発物件12件のうち8件がすでに決定し開業に向けて動き出しています。

また、三宮ゼロゲートの新築による進行など、新生渋谷パルコをはじめとする各物件の計画は順調に進捗しています。

下期は、J.フロント リテイリングとの協業案件「パルコヤ」（上野）がいよいよ開業となり、加えて、注目度の高い商業エリアである京都ゼロゲートの開業を予定しています。

1996年に開業した大津パルコは、8月末で営業を終了しました。

2017年度上期業績概要／2017年度業績予想

ショッピングセンター事業トピックス

開発事業

店舗事業

関連事業トピックス

2017年度第2四半期の業績概要をご説明いたします。

主力SC事業の店舗数減により減収減益も、利益は対計画で上回って着地

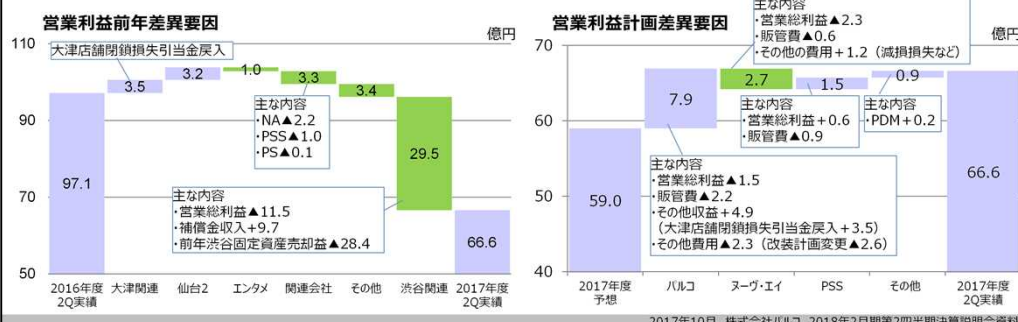
単位：百万円

	2017年 3月～8月	2016年 3月～8月	増減額	前年 同期比	計画額	増減額	計画比
営業収益	45,230	47,168	▲1,938	95.9%	45,500	▲269	99.4%
営業利益*1	6,666	9,716	▲3,049	68.6%	5,900	766	113.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益*1	4,469	5,672	▲1,202	78.8%	3,800	669	117.6%
EBITDA*2	9,398	12,322	▲2,923	76.3%	—	—	—

*1 営業利益、当期利益の減少の要因は、主に前年の渋谷パルコ建替え計画に関わる不動産売却によるものです

*SC：ショッピングセンター

*2 EBITDAは、「営業利益＋減価償却費（連結キャッシュ・フロー計算書の減価償却費及び償却費）」で算出しております



2017年度第2四半期の連結業績につきましては、主力のショッピングセンター事業の店舗数の減少などにより前年に対しては減収減益となりましたが、営業利益、四半期利益は計画を上回って着地しました。

営業収益は、パルコの衣料品販売の不振などによる売上基調の低下や、渋谷パルコの一時休業や千葉パルコの閉店の影響などにより、452億30百万円、19億38百万円の減収となりました。

営業利益は、前年の渋谷パルコ建替え計画に関わる不動産売却の影響などにより、66億66百万円、30億49百万円の減益となりましたが、計画に対しては113%、7億66百万円上回りました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、利益減少により、44億69百万円、12億2百万円の減少となりましたが、計画に対しては117.6%、6億69百万円のプラスとなりました。

上期業績概要 ② 連結業績（貸借対照表）

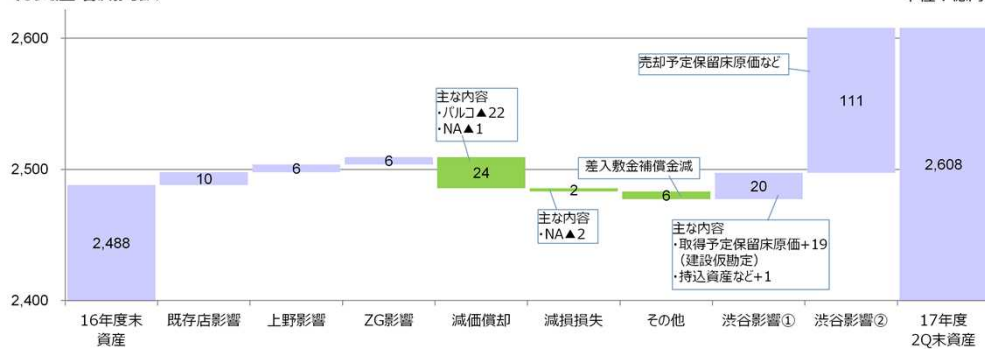
5/23

単位：百万円

連結	2017年 8月末	2016年 年度末	増減額
総資産	260,803	248,806	11,997
純資産	123,842	120,600	3,242
有利子負債	47,665	58,162	▲10,496
自己資本比率	47.5%	48.5%	▲1.0%

総資産増減内訳

単位：億円



2017年10月 株式会社バルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

総資産につきましては、渋谷再開発に係る保留床原価の計上や保留床売却代金入金による現預金の増加などにより、前連結会計年度末と比べ119億97百万円増加し、2,608億3百万円となりました。

渋谷再開発での売却予定保留床分により総資産が大幅に増加しており、その影響を除きますと、約9億円の増加となります。

純資産合計は32億42百万円増加して1,238億42百万円となり、自己資本比率は、47.5%となりました。

有利子負債は、104億96百万円減少しました。

上期業績概要 ③ 連結 セグメント別実績

6/23

単位：百万円

		2017年 3月～8月	2016年 3月～8月	増減額	前年同期比
ショッピング センター事業	営業収益	25,513	27,483	▲1,970	92.8%
	セグメント利益	6,617	9,256	▲2,638	71.5%
専門店事業	営業収益	10,597	10,404	193	101.9%
	セグメント損失	▲192	26	▲218	-
総合空間事業	営業収益	10,273	10,619	▲345	96.7%
	セグメント利益	299	393	▲93	76.2%
その他の事業	営業収益	2,781	3,021	▲240	92.0%
	セグメント損失	▲55	46	▲102	-
連結	営業収益	45,230	47,168	▲1,938	95.9%
	セグメント利益	6,666	9,716	▲3,049	68.6%

- * セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています
- * (株)パルコのエンタテインメント事業の業績は、「その他の事業」に含まれております
- * 事業間での調整があるため、各事業業績の計の数値と連結の数値は、異なります

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

連結セグメントでは、専門店事業は増収となったものの、全事業において減益となりました。

専門店事業の株式会社ヌーヴ・エイは、化粧品などのローズマリー事業、アイウェア事業は堅調も、TiCTAC事業やコレクターズ事業が苦戦し、増収減益となりました。

総合空間事業のパルコスペースシステムズは、前年の仙台パルコ2のテナント内装工事の大規模受注の反動などにより苦戦し、上期は減収減益となりましたが、内装・ディスプレイ事業の外部大型商業施設の新設工事の受注や、ホテル事業部で計画外の新規案件を複数受託したことなどにより、計画に対しては上回って着地しました。

その他の事業のパルコデジタルマーケティングは求人事業撤退により減収だったものの新規クライアント案件の獲得や前年に受注した案件などにより増益となりましたが、株式会社パルコのエンタテインメント事業がパルコ劇場の休館などにより減益となり、トータルではマイナスとなっています。

上期業績概要 ④ 連結 主な販売費及び一般管理費と設備投資

7/23

主な販売費及び一般管理費

単位：百万円

連結	2017年 3月～8月	2016年 3月～8月	増減額	前年同期比
人件費	3,998	3,955	43	101.1%
借地借家料	1,461	1,382	78	105.7%
宣伝費	334	305	29	109.7%
業務委託費	568	552	16	103.0%
減価償却費*1	426	404	21	105.4%
租税公課	399	310	89	128.7%
販売管理費計	9,424	9,143	280	103.1%

*1 減価償却費には、販管費処理の減価償却費以外に、営業原価処理の減価償却費があります

設備投資

連結	2017年 3月～8月	2016年 3月～8月	増減額	前年同期比
設備投資	5,205	10,689	▲5,484	48.7%

* 設備投資の前年同期との差異は、主に前年の仙台パルコ2と渋谷パルコ建替え計画に関わる投資によるものです

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

連結の販売費及び一般管理費は、パルコ既存店舗で経費を圧縮しましたが、ヌーヴ・エイの出退店や改装に伴う借地借家料や減価償却費の増加に加え、外形標準税率の変更影響による租税公課の増加などにより、94億24百万円、前年と比べ2億8千万円の増加となりました。

設備投資は、主に前年の仙台パルコ2と渋谷パルコ建替え計画に関わる投資により、52億5百万円となり、前年に比べ54億84百万円減少しました。

減収減益も、利益は計画に対して上回って着地

単体業績

単位：百万円

	2017年 3月～8月	2016年 3月～8月	増減額	前年 同期比	計画額	増減額	計画比
営業収益	27,828	29,976	▲2,148	92.8%	28,246	▲417	98.5%
営業利益*	6,522	7,576	▲1,054	86.1%	5,724	798	113.9%
四半期利益*	4,682	4,750	▲68	98.6%	3,996	686	117.2%

* 営業利益、四半期利益の減少の要因は、主に前年の渋谷パルコ建替え計画に関わる不動産売却によるものです

	2017年 8月末	2016年 年度末	増減額
総資産	257,168	245,802	11,365
純資産	123,062	119,621	3,441

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

次に単体の業績についてご説明いたします。

2017年度第2四半期の単体業績も、連結業績と同様に、減収となりましたが計画に対して上回って着地しました。

営業収益は278億28百万円で、衣料品販売の不振などによる売上基調の低下や、渋谷パルコの一時休業、千葉パルコの閉店影響などにより、21億48百万円の減収となりました。

営業利益は、65億22百万円、前年の渋谷パルコ建替え計画に関わる不動産売却の影響などにより、10億54百万円の減益となりましたが、計画に対しては113.9%、7億98百万円上回っています。

四半期利益は、子会社からの受取配当金などがあったものの、法定実効税率の変更などの影響による法人税の減少などにより、46億82百万円で、68百万円の減益でしたが、計画に対しては117.2%、6億86百万円のプラスとなりました。

連結通期業績予想

9/23

営業利益と当期利益を上方修正

単位：百万円

連結 (IFRS)	2017年度 (2018年2月期) 新業績予想	2016年度実績 (2017年2月期)	増減額	前年比	当初予想額	増減額
営業収益	94,000	93,780	219	100.2%	95,100	▲1,100
営業利益	11,600	14,203	▲2,603	81.7%	11,500	100
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7,500	8,795	▲1,295	85.3%	7,400	100

1株当たりの中間配当は11円を決定し、年間配当は23円を予定

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

2017年度の通期業績予想につきましては、連結通期営業収益の予想を前年比100.2%の940億円、営業利益を116億円、当期利益を75億円に修正いたします。

上期の実績を踏まえ、通期の業績予想を見直した結果、下期を中心に地方と郊外のパルコ店舗の近隣競合店影響やヌーヴ・エイの新規出店の見直しなどもあり営業収益は期首発表値から僅かに引き下げたものの、都心型店舗の堅調な推移の見込や店舗の経費効率化などにより営業利益、当期利益は上方修正しました。

配当につきましては、中間配当は11円を決定し、年間では23円を予定しています。

2017年度上期業績概要／2017年度業績予想

ショッピングセンター事業トピックス

開発事業

店舗事業

関連事業トピックス

ショッピングセンター事業のトピックスを、ご説明いたします。

大丸心斎橋店北館内への出店計画を決定。8件の計画案件が進行中



開発計画では、9月、大丸心斎橋店北館内への出店計画を決定しました。
 現在、8件の計画案件が進行しています。

2017年度は、パルコ業態1件とゼロゲート1件を開業予定

PARCO_ya (上野フロンティアタワー内)、11月4日開業決定

- ・パルコ業態として、東京23区内では渋谷パルコ以来44年ぶりの新規マーケットへの出店
- ・大型複合施設内へ出店し、客層が連携する専門店で編集
- ・既存のパルコ店舗とは異なることをわかりやすく伝えるための新しい屋号「PARCO_ya」
- ・団塊ジュニア世代を中心としたおとなの男女がターゲット



当社施設規模	地上1階から6階
当社賃借部分面積	約8,200㎡

京都ゼロゲート(仮称)、下期オープン

注目度の高い商業エリア、大丸京都店隣接

建物規模	地下2階、地上7階
延床面積	約5,200㎡ (予定)

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

2017年度は、パルコ業態1件とゼロゲート1件の開業を予定しています。

大丸松坂屋百貨店が松坂屋上野店の隣に開業する上野フロンティアタワー内に「パルコヤ」を11月4日に開業することを決定しました。

パルコ業態では、東京23区内では1973年の渋谷パルコ以来、44年ぶりの新規マーケットへの出店となります。

これまでのビル運営手法を発展させて大型複合施設へ出店し、それぞれの客層が連携する専門店で編集します。

屋号は、既存のパルコの店舗とは異なることをわかりやすく伝えるために、新しく「パルコヤ」としました。

また、京都ゼロゲートを下期オープンします。

注目度の高い商業エリアである京都中心部、大丸京都店隣接地への出店であり、パルコグループとしての初めての京都での商業施設の開設となります。多彩なテナントによる中高層業態へ初めて取組みます。

各物件とも、順調に進捗

各物件の進行状況		開業予定	
新生渋谷パルコ	・新築工事着手	5月	2019秋
	・オフィス部分の保留床譲渡契約を締結	5月	
錦糸町駅前物件	・出店を決定	4月	2019春
	・商業施設出店についての合意書を締結	4月	
浦添西海岸計画	・新築工事着手	7月	2019夏
原宿ゼロゲート(仮称)	・新築工事着手	6月	2018春
三宮ゼロゲート(仮称)	・新築を決定	7月	2018秋
	・既存建物の解体工事着手	7月	

各イメージ



2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

そのほかの進行中の各物件も、それぞれ順調に進捗しています。

新生渋谷パルコは5月建築に着手し、また、事務所床に関する譲渡契約を締結しました。

錦糸町駅前物件は、4月に出店についての合意書を締結し出店を決定しました。

沖縄の浦添西海岸と原宿のゼロゲートは、ともに新築工事に着手しております。

三宮ゼロゲートは、新築を決定しすでに既存建物の解体工事に着手しています。

心斎橋への出店計画を発表。開発計画目標12件中、8件がすでに進行中

大丸心斎橋店北館への出店を決定。パルコ業態の空白地域へ2021年春の開業を予定

- ・ 訪日客も多く注目度の高い商業エリアである心斎橋へ、パルコ業態を出店
- ・ 北館は、2階から10階の各階を連絡通路で大丸心斎橋店本館と接続予定

* 当社賃借部分

当社施設規模	地下2階から地上7階
延床面積	約22,000㎡（予定）
オープン日	2021年春（予定）

中期経営計画の進捗状況

	中計 目標	計画中	開業予定				残 (件)
			2017	2018	2019	2021	
パルコ業態	4	3	秋		秋	春	1
新業態	3	2			春 夏		1
ゼロゲート	5	3	下期	春 秋			2
計（件）	12	8					4

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

9月、大丸心斎橋店北館への出店を決定し発表しました。2021年春の開業を予定しています。

訪日客も多く注目度の高い商業エリアである心斎橋へ、パルコ業態を出店します。

大丸心斎橋北館は大丸心斎橋本館に隣接し、2階から10階の各階を連絡通路で本館と接続する予定です。

新規の開発物件としては、かつての心斎橋パルコをゼロゲートとして再生して以来、パルコ業態の空白地であった大阪エリアへの出店となります。

この心斎橋を新たに加え、中期経営計画で目標としている開発物件12件のうち8件がすでに決定し開業に向けて動き出しています。

生活者のライフスタイルの変化や需要を踏まえた改装を推進

上期改装実施面積：約18,000㎡、改装ゾーン取扱高前年同期比127.5%

- ・都心型店舗：名古屋パルコを中心に改装。改装ゾーン取扱高前年同期比125.9%
- ・コミュニティ型店舗：浦和パルコを中心に改装。改装ゾーン取扱高前年同期比129.8%

年間で約44,000㎡の改装実施を推進

<都心型店舗>

○各アイテムでのテーマをもって、こだわり消費とコト消費を中心に新しい消費を創造する改装を実施

○下期は、福岡パルコ、名古屋パルコを中心に改装予定

福岡パルコでは非物販の新たな試みで店舗魅力と集客力向上に貢献

- ・新感覚ホステル「泊まれる本屋」(4月)と、プロジェクト創生型シェアオフィス(12月)を誘致。共に商業施設内では初の取り組み

名古屋パルコでは独自の価値観を持った女性の多様化するニーズに対応

- ・「楽しい時間・居心地」「こだわりの地産地消素材」「フォトジェニック」をシェアするレストランフロアを構築（5月）
- ・モードブランドのさらなる充実、今東京で勢いのあるブランドの全国に先駆けた導入など、ファッション提案を強化（下期）



BOOK AND BED TOKYO
(ブック アンド ベッド トウキョウ)

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

パルコ店舗では、今期、ライフスタイルの変化や生活者の需要を踏まえた改装を実施しています。上期は、約18,000㎡の改装を実施し、改装ゾーン取扱高前年同期比は127.5%となりました。

都心型店舗では名古屋パルコを中心に、コミュニティ型店舗では浦和パルコを中心に改装を実施し、改装ゾーン取扱高前年同期比はそれぞれ、125.9%、129.8%となりました。

年間では約44,000㎡の改装を予定しています。

都心型店舗では、福岡パルコ、名古屋パルコを中心に各アイテムでのテーマをもって、こだわり消費とコト消費を中心に新しい消費を創造する改装を実施しています。

福岡パルコの今期の改装では、非物販の新たな試みで店舗の魅力と集客力の向上に貢献しています。4月には新感覚ホステルである「泊まれる本屋」がオープンしました。WEBでは経験できないような、新しいトキを過ごしたり体験したりすることができ、このような施設の展開は商業施設内では初となります。

また、プロジェクト創生型のシェアオフィスを誘致し12月のオープンを予定しています。こちらも商業施設として初となるシェアオフィスの導入でお客様の多様化する需要に応えます。

名古屋パルコでは独自の価値観を持った女性の多様化するニーズに、いち早く対応するような改装をおこなっています。

5月、「楽しい時間・居心地」「こだわりの地産地消素材」「フォトジェニック」をシェアするレストランフロアをつくりあげました。下期はモードブランドをさらに充実させ、いま東京で勢いのあるブランドを全国に先駆けて導入するなど、ファッションでの提案性を高めています。

<コミュニティ型店舗>

- 集客力の高い大型キーテナントを網羅するようテナント構成を再構築し、各マーケットのニーズをとらえたサービスなどの新アイテムテナント誘致によりワンストップ性を向上
- 下期は津田沼パルコ、浦和パルコを中心に地域の需要を充足する改装として食品フロアを刷新

津田沼パルコの地下1階に、10月5日「つだぬマルシェ」オープン

- ・津田沼パルコ A 館・B 館地下フロアが全面グランドオープン
- ・「専門性の高い、高質な食品」の導入と「暮らしの必需品・生活雑貨」を拡充する、全15店舗で構成



イメージ

浦和パルコの地下1階に大型スーパーなどを誘致し、良質な食品ゾーンを11月下旬にオープン予定

- ・近隣商圏の30～40代を中心とした3世代ファミリーがターゲット
- ・大型スーパー「ヤオコー」の都市型新業態のほか、スイーツ、グロサリーやカフェ、生活雑貨など、日常の暮らしに彩りを添えるバラエティ豊かな専門店を新たに導入予定

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

コミュニティ型店舗では、集客力の高い大型キーテナントを網羅するようテナント構成を再構築し、各マーケットのニーズをとらえたサービスなどの新アイテムテナントを誘致することにより、ワンストップ性を向上させる改装を実施しています。

下期は津田沼パルコと浦和パルコを中心に改装を予定しており、この2店舗で食品フロアを刷新し、地域の需要に応えます。

津田沼パルコでは、地下1階に、10月5日「つだぬマルシェ」がオープンし、津田沼パルコのA館とB館の地下フロアが全面グランドオープンしました。「専門性の高い、高質な食品」を導入し「暮らしの必需品・生活雑貨」を拡充する全15店舗で構成しています。

浦和パルコでは、近隣商圏の30代から40代を中心とした3世代ファミリーをターゲットに、地下1階に大型スーパー「ヤオコー」の都市型新業態のほか、スイーツ、グロサリーやカフェ生活雑貨など、日常の暮らしに彩りを添えるバラエティ豊かな専門店を新たに導入する 予定で、良質な食品ゾーンとして11月下旬にオープンします。

来店前アプローチと来店時サービスの拡充で、インバウンド取扱高伸長継続

訪日前アプローチ

現地での情報収集ルート確保
訪日留学生からの動画・SNSを
使った情報発信

来店促進策

複数チャネルでのクーポン配布
アジアの有力ショッピングセンターと
顧客特典相互連動を実施

来館時のサービス拡充

テナントスタッフの英会話研修
映像通訳サービスをパルコ5店舗
に導入

インバウンド参考実績	札幌パルコ	池袋パルコ	福岡パルコ	名古屋パルコ	全店計*1
海外発行クレジットカード取扱高 前年同期比	107.2%	143.8%	169.3%	228.9%	135.6%
同 取扱高シェア*2 (前年同期差)	11.6% (+0.6%)	3.7% (+0.9%)	2.5% (+0.9%)	1.2% (+0.7%)	1.6% (+0.5%)

*1 全店計の海外発行クレジットカード取扱高前年比の元となる前年同期の実績には、渋谷パルコの値を含みません

*2 海外発行クレジットカード取扱高シェアは、「テナント取扱高」におけるシェアです

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

訪日客の店頭取扱高に関しては、海外発行クレジットカード取扱高が引き続き高伸長しており、取扱高に対するシェアも伸長しています。

インバウンド需要の取り込みとして、訪日前と来店前のアプローチ、来館時のサービス拡充により、インバウンド取扱高の高伸長を継続しています。

訪日前のアプローチとして、現地での情報収集の確保と、訪日留学生の動画やSNSを使った効果的な情報発信を実施しています。

また、パルコへの来店前のアプローチとして、アジアの有力ショッピングセンターと顧客特典相互連動の実施や、複数チャネルでクーポンを配布するなど、来店促進策を実施しています。

さらに、来館された訪日客へのサービス拡充としては、テナントスタッフの英会話研修を実施しているほか、クラウドでの英語・中国語・韓国語の映像通訳サービスを、訪日客取扱高のシェアの高いパルコ5店舗に導入しました。そのほか、各ショップでの翻訳アプリの利用も推奨し、訪日客に対応しています。

ICTを活用し、将来につなげるさまざまな実証実験やテナントサポートを実施

テクノロジーの活用による顧客リレーション政策の推進

- ・来店客の属性を判断し最適な商品を提案するAI搭載ロボットの実証実験（8月/浦和パルコ内ショップ）
- ・リアル店舗で取得可能なデータとアプリなどのデータを施策投下に活用し、単価向上や離反防止に寄与（下期）
- ・客数や属性の計測システムを各ショップに導入。テナントに提供し活用（11月/パルコヤに導入）



カエルパルコの機能拡張によるショップ売上の拡大と業務効率化

- ・カエルパルコを使ったブロックチェーン活用宅配ボックスの実証実験を実施（5、6月/池袋パルコ内ショップ）
- ・出店各社の自社ECの商品データと店頭在庫データをカエルパルコに連携し、商品登録作業削減による商品数拡大と来店前の商品在庫確認を実現（下期/池袋パルコ内ショップ）

ロボットなどの積極的な導入による店舗活性化と業務効率化

- ・ショップスタッフ向け入店前研修のWEB化（7月/福岡パルコ→随時各店導入）
- ・来店客店内案内とテナントの棚卸作業補助を行う自走式ロボットを実証実験（今秋/都内パルコ）

店内案内&棚卸作業ロボット



ICT: Information and Communication Technology AI: Artificial Intelligence（人工知能） EC: Electronic Commerce

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

店舗事業では、ICTを活用した将来につなげるさまざまな実証実験や顧客サービスとテナントサポートを推進しています。

まず、テクノロジーを活用し、個々のお客さまとのリレーションの政策に取り組んでいます。

8月には浦和パルコの複数のショップで、来店客の属性を判断し最適な商品を提案するAI搭載ロボットの実証実験を行いました。下期には、リアル店舗で取得できるデータとアプリやWEBなどのデータを活用して、販売促進策の自動送信と効果測定を繰り返すシステムを構築します。これは、買上げ単価の向上や顧客離反の防止に貢献するシステムです。また、11月にオープンする上野のパルコヤでは、来店客数や属性の計測システムを各ショップに導入してテナントに提供し、販促と運営に活用します。

次に、カエルパルコの機能を拡張し、それによってショップ売上の拡大と業務の効率化を図っています。

5月から6月にかけては、カエルパルコと池袋パルコの一部のショップを使っての、ブロックチェーンを活用した宅配ボックスの実験を実施し、社会的にもタイムリーなテーマであったこともあり、大きな反響がありました。下期には、池袋パルコのショップで、パルコ店舗に出店している各社の自社ECの商品データとリアルショップの店頭在庫データをカエルパルコに連携し、商品を登録する作業などの削減により、取扱い商品数の拡大と来店前の商品在庫確認を可能にする試みも行います。

さらに、ロボットなどを積極的に導入し店舗の活性化と業務の効率化にも取り組んでいます。

ショップスタッフの入店前オリエンテーション研修をWEB化しました。都合のいい時間に受講でき、後日復習もできるなど、ショップスタッフにとっての利便性が高まり、より店頭での接客業務に注力できるようになりました。7月に福岡パルコからスタートし、順次そのほかのパルコ店舗へ拡大していきます。

この秋には、テナント従業員の棚卸作業の補助を行う自走式ロボットの実証実験を都内のパルコで行う予定です。これは、来店客向けの店内案内に加えて、人よりロボットがおこなった方が効率的なことをロボットに補助してもらう試みです。

時代を捉えた素材の多面展開やコラボレーションを創出するプロデュース力を発揮

パルコミュージアム展覧会企画

記録的ヒットのパルコオリジナル展覧会を、池袋パルコのほか、外部施設も含め巡回

話題の映画とのコラボレーション企画

グランバザールとの広告タイアップや全国のパルコ店舗での期間限定コラボカフェやグッズショップを展開

「パルコヤ」オープン時のプロモーションイベント

パルコ企画展覧会の松坂屋上野店との共同開催のほか、地元上野の東京都美術館の展覧会やパルコ配給映画との連動プロモーションを展開



店舗事業では、展覧会企画や映画など時代を捉えた素材をパルコ店舗のプロモーション企画とタイアップするなど、多面的な展開やコラボレーションを創出するプロデュース力を発揮しています。

パルコミュージアムの企画では、オリジナル企画である、ロバート秋山の「東京クリエイターズ・ファイル祭」が記録的ヒットとなるなど、店舗の動員に大きく貢献しています。池袋パルコでの開催のあと、名古屋パルコや福岡パルコなど外部施設も含め巡回を実施、および予定しています。

また、夏のグランバザールは、話題の映画「怪盗グルーのミニオン大脱走」とコラボレートし、広告タイアップや全国のパルコ店舗での期間限定コラボカフェやグッズショップを展開しました。

11月に開業する「パルコヤ」のオープニングのプロモーションイベントでは、パルコオリジナル企画の、「レゴブロックで作った世界遺産展」の松坂屋上野店との共同開催に加えて、地元上野の東京都美術館で開催される展覧会「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」や、パルコ配給映画「ゴッホ～最期の手紙～」との、連動プロモーションの展開を予定しています。

2017年度上期業績概要／2017年度業績予想

ショッピングセンター事業トピックス

開発事業

店舗事業

関連事業トピックス

関連事業のトピックスを、ご説明いたします。

専門店事業(ヌーヴ・エイ)

上期増収減益。既存店売上強化を最優先し、収益性の改善を図る

<上期実績>

- ・ローズマリー事業、アイウェア事業は堅調も、TiCTAC事業やコレクターズ事業が苦戦
- ・2店舗を出店する一方、不採算店舗など14店舗のリストラを実行

<下期計画>

- ・既存店売上の向上を最優先。新規店舗は2店舗
- ・EC売上拡大のために商品力とシステムの強化を加速

事業部名 (アイテム)	店舗数
TiCTAC(腕時計)	94
アイウェア(眼鏡)	27
ローズマリー(化粧品・化粧雑貨)	23
コレクターズ(メンズ雑貨)	40
その他新業態	5

総合空間事業(パルコスペースシステムズ)

上期減収減益も対計画では上回って着地。下期は工事受注増を見込む

<上期実績>

- ・前年の仙台パルコ2のテナント内装工事の大規模受注の反動などがあり、前年から収益が減少
- ・内装・ディスプレイ事業での関西エリアの外部大型商業施設新設工事の受注や、ホテル事業でも関東・関西各エリアの新規案件を複数受託したことにより、利益計画を達成

<下期計画>

- ・パルコヤでのテナント内装工事をはじめとする工事受注増を見込む

2017年10月 株式会社パルコ 2018年2月期第2四半期決算説明会資料

専門店事業の株式会社ヌーヴ・エイは、ローズマリー事業、アイウェア事業は堅調でしたが、TiCTAC事業やコレクターズ事業が苦戦し、上期は増収減益となりました。2店舗を出店する一方、不採算店舗の14店舗のリストラを行いました。

下期は、既存店売上向上を最優先して新規店舗を2店舗とするなど、収益性の向上を図るとともに、EC売上拡大のために商品力とシステムの強化を加速していきます。

総合空間事業のパルコスペースシステムズは、前年の仙台パルコ2のテナント内装工事の大規模受注の反動などがあり、上期は前年から収益が減少しましたが、内装・ディスプレイ事業での外部大型商業施設の新設工事の受注や、ホテル事業部での計画外の新規案件を複数受託したことなどにより、計画に対しては上回って着地しました。

下期は11月に開業するパルコヤでの内装工事をはじめとする受注の増加を見込んでいます。

その他の事業（パルコデジタルマーケティング）

上期は増益。デジタルマーケティング事業拡大に集中し事業基盤を強化

＜上期実績＞

- ・求人事業撤退により減収も、新規クライアント6案件獲得や前期獲得案件などが増益に寄与

＜下期計画＞

- ・オムニチャンネル化促進などの、ICT活用テーマの企業支援事業を拡大

その他の事業（エンタテインメント事業（パルコ））

渋谷パルコ建替に伴う劇場・映画館休止などにより上期減収減益。外部拠点やコラボカフェに注力

＜上期実績＞

シンゲンザレイン

- ・外部拠点での、「SINGIN' IN THE RAIN ～雨に唄えば」の再演や、三谷幸喜作・演出の「不信 ～彼女が嘘をつく理由」などが高評価
- ・渋谷パルコで成果を上げたキャラクターコラボカフェ「THE GUEST cafe & diner」は、池袋パルコのほか全5拠点に拡大展開

＜下期計画＞

- ・「ロッキーホラーショウ」や「オーランドー」、「すべての四月のために」など、話題作を外部劇場で上演予定
- ・映画では、“動く油絵”で構成した「ゴッホ～最期の手紙～」を配給予定



その他の事業のパルコデジタルマーケティングは、上期は、求人事業撤退により減収となりましたが、新規クライアントの6案件の獲得や前年に獲得した案件などが増益に寄与しました。

今後さらにデジタルマーケティング事業の拡大に集中して事業の基盤を強化し、オムニチャンネル化促進などのICT活用テーマの企業支援事業を拡大していきます。

株式会社パルコのエンタテインメント事業は、渋谷パルコの建替えに伴うパルコ劇場や映画館シネマの休止などにより上期は減収減益となりました。

劇場の演目では、外部拠点での、「シンゲンザレイン～雨に唄えば」の再演や、三谷幸喜の作・演出による「不信 ～彼女が嘘をつく理由」などが、高い評価をいただきました。

また、渋谷パルコで成果を上げたキャラクターコラボカフェ「ザ ゲストカフェ アンド ダイナー」は、主要拠点を池袋パルコへ移し、全5拠点に拡大展開しています。「ミニオン大脱走カフェ」など、各企画が盛況となり、動員に大きく貢献しています。

下期は、「ロッキーホラーショウ」や「オーランドー」、「すべての四月のために」など、話題作を外部劇場で上演予定です。映画では、全編を動く油絵で構成した「ゴッホ～最期の手紙～」を買付けました。共同出資作品として、当社が配給する予定です。



本資料に記載した予想数値などは、2017年10月6日時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績などは、業況の変化などにより、記載数値と異なる場合がありますことをご了承ください。

本資料に掲載しているパース図などは、イメージであり実際とは異なる場合があります。

本資料の著作権は全て当社（当社が許諾を受けている第三者を含みます）に属しており、いかなる目的であれ、本資料を私的利用以外の目的で利用すること、および著作権法で定める私的利用の範囲を超えて無断で複製・転載・翻案・送信などを行うことを禁じます。

* 2017年10月10日改訂